

いろはにこんぺいとう

52 Q 特太教科書体 / 字間ツメ

いろはにこんぺいとう

こんぺいとうは甘い

甘いはお砂糖 お砂糖は白い

白いはうさぎ うさぎは跳ねる

跳ねるは蚤 蚤は赤い

赤いはリンゴ

26 Q 太教科書体 / 行間4H送り

いろはにこんぺいとう

金平糖は甘い

甘いはお砂糖 お砂糖は白い

白いは兎 兎は跳ねる

跳ねるは蚤 蚤は赤い

赤いはほおずき ほおずきは鳴る

18 Q 中太教科書体 / 行間28H送り

わらべうたはもともと、子供たちが自然に習い覚え、口伝えに歌い継いできたものです。伝承されていくあいだに元歌が変化していった例も数多く見られます。「いろはにこんぺいとう」は、そんな典型的な例。歌詞が「しりとり」形式になっでいて、登場する事象も子供たちに馴染み深いものばかり。それゆえにこそ、歌われていく地方や世代、また男児や女兒によって、いくつものバリエーションがあるようです。

13 Q 中太教科書体 / 行間21H送り

白いはうさぎ

うさぎは跳ねる

30 Q 細教科書体 / 行間4H送り